





# 可愛い子には旅をさせよ



5/30(火)、31(水)の6時間目にしおりの読み合わせを行いました。詳細な行程や持ち物の確認、各係の仕事についての細かな説明と確認を行いました。最後に、学年主任としてこの様な話をしました。

## 「最高に価値のある修学旅行にするために」 という内容です。

修学旅行はお金を払って行くのに様々な制約があります。家族や友人との旅行では服装や持ち物を指定されませんが、なぜ修学旅行は色々と決まりがあるのでしょうか？決めごとがあるにはどの様な意味があるのでしょうか？「集団で行くのだから仕方ない」「学校生活の延長だからルールがあるのは当然」それだけで終わらせてしまうと、とても勿体ないと思うのです。

修学旅行での生活は、家での生活より快適・便利ではありません。普段はスマホを使えます、ゲームができます。TVが見れます。寝起きする時間や食べたり飲んだりもある程度自由です。それが当たり前じゃない環境に身を置くことで、普段の生活を振り返ってほしいのです。早寝早起きをすることで「健康的な生活習慣が身につくと体調が良いな」と気づいて欲しい。スマホ、ゲームから離れ、友達と話をしたりトランプに興じて、人と関わることの楽しさと、「いかにメディアの使用が時間を奪っているか」に気づいて欲しい。黙食に慣れてしまいましたが、楽しく話をしながら「同じ釜のメシを食う」ことの楽しさを思い出して欲しい。マスクを外すことも恥ずかしい皆さんですが、入浴では「裸の付き合い」をして、より密な青春を味わって欲しい。そう思うのです。

より端的に言うと「行く前の生活を振り返り、行った後の生活に活かす」となりますが、突き詰めると「不自由の中で本当の幸せに気づく」絶好の機会になると思うのです。そのためには自ら快適さから距離を置くべきなのです。家での生活をできるだけ持ち込まない方が、価値がある旅になるのです。そう考えると、不要物を持ち込もうとする思考は根本から間違っていると気づけるはずです。

また今回、多くの決め事を生徒の手に委ねました。こちら側で決めるのではなく、生徒たちの成長を願い、信頼してそうしました。その中で行動班・部屋班決めて納得解を出すことに1番苦労した様に思います。できるだけ親しい人と一緒にいたい、仲の良い子と同じ班になりたいとは、誰しもが思うことです。本来であれば各種行事や日常生活を通じて誰とでも仲良くできる状態を作って修学旅行を迎えたかったのですが、それができなかった難しさがありました。その中で利己的にならず様々なことを考えて決めた実行委員や班長は素晴らしく、成長できたと思います。班員の発表があった際に不安を覚えた生徒もいると思いますが、友達の輪を広げる機会を得ました。仲間が増えれば、楽しい時間も増えます。勇気を出して、コミュニケーションを図りましょう！修学旅行が終わってからの学校生活が、より楽しくなるために！

学年として「修学旅行の2日目はタクシー行動を選択せず、公共交通機関で行かせよう」と入学時に決めてここまで準備をしてきました。1年次の「仲を深めること」を狙いとする遠足や「修学旅行への第一歩」となるはずだった川越校外学習は中止となり、2年次では「自然という最高の環境下での集団生活」を経験するはずだった水上自然教室も宿泊ではなく日帰りになるなどコロナの影響は容赦無く中学校生活に影響を与えてきました。しかし、その状況に弱音を吐かず日々前を向いて頑張る49期生の姿に勇気をもらい、突き動かされここまでやってきました。

主担当である[ ]は「どうしたら生徒が修学旅行で良い思い出を残せるか」寝る間も惜しんで考えてくれています。学年職員はもちろんですが、校長先生、養護の[ ] 応援として来てくれる[ ]と[ ]も49期生のために力を貸していただきます。沢山の支えがあって成り立つ最初で最後の修学旅行が最高の旅行になることを願っています。

**かけがえのない経験を共有して、一生物の友情を手に入れましょう！**